

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年 1月 15日

1. 職名・氏名 教授・森中洋一

2. 学位 学位 博士（農学）、専門分野 園芸学、授与機関 筑波大学、授与年 2001

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境・文化概論（4）1年 ・総合農学（8）1年 ・食農環境実習Ⅰ（2）1年 ・食農環境演習Ⅰ（4）1年 ②内容・ねらい 全てオムニバス形式のため、担当箇所を記載。 ・食農環境・文化概論：民間企業における作物育種のあり方を概説する中で日本の野菜育種（種苗業界）の特徴を解説した。また土橋登喜雄氏（ふくいの地産地消コーディネーター・野菜ソムリエコミュニティ福井代表）による福井の野菜および生産現場と消費者とを繋ぐ取り組みについての講義をコーディネートした。 ・総合農学：学生各々に割り振り個人管理させる小区画圃「Myfarm」に取組ませるにあたり区割り、手作業での畝立ての実演指導、ガイダンス（実際に作業に取り掛かれた後期授業から始められる作物の案内、資材手配等）および実技指導。 栽培試験（栽植密度の違いが小カブの形態、収量に及ぼす影響の調査）に関して、試験設計、作業、観察ポイント、調査方法の指導。 学内生産圃の作業指導（カンショ収穫、洗浄、キャベツ播種、定植） 福井の野菜各論（カンショ、スイカ）講義。 ・食農環境実習および演習Ⅰ：前期は坂井農林事務所（林業部、農村整備部、農業経営支援部）遠隔講義コーディネート、特任講師を依頼した県内生産者、生産法人の方の現場取材およびインタビューのリアルタイム配信および動画撮影、編集、配信（計13件）、後期は植物工場、直売所現場見学引率および各特任講師講義のコーディネートを行った。 いずれも学生がおそらくこれまで具体的には意識してこなかったであろう食、農の「業」としての側面を見せることをねらいとした。 ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・講義ごとに感想、疑問点などを書かせるレポートを課し、記憶の定着を図った。 ・特任講師の方々へのインタビュー時は、普段の言葉で現場の実態・実情や思いを語っていただけるよう、事前に雑談などによりできるだけリラックスした空気を作るよう努めた。また適宜専門および業界用語の説明などのフォローを入れ、学生と特任講師との意思疎通をスムーズにするよう努めた。 ・圃場作業実習時は適宜、実技指導や質問などに対応できるよう、全体を見まわしつつ巡回するよう心掛けた。
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等	【 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体の委員会・審議会 ・福井県エコ園芸推進協議会：CO2削減効果の高い高効率ヒートポンプ空調を活用した大規模園芸農業の普及および関連技術の研究、情報収集。 会長 2020年7月～現在に至る 設立総会 司会（プラザ萬象小ホール、2020年7月31日） ⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向け講座の開講 ・福井県立大学オープンカレッジオンライン 模擬授業「自分好みの花や野菜を創ろう！品種改良っておもしろい」（あわらキャンパス、2020年7月19日） ・福井県立大学 2020年度後期公開講座 「創造農学科おもしろ講座 第3回 品種改良っておもしろい！」（あわらキャンパス、2020年10月30日） ・福井県青年農業者クラブ交流会 合同講義「野菜等の品種改良について」（あわらキャンパス、2020年12月10日） ⑦その他 ・総合的な探求の時間 アドバイザー（県立武生東高等学校、2020年8月20日）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
あわら地区事業場職場委員会 副代表 2020年4月～現在に至る
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス 2020年7月19日 入試説明会（鯖江高等学校）2020年7月20日 大学見学会（あわらキャンパス）2020年8月9日 ちびっ子オープンキャンパス in あわら（あわらキャンパス）2020年10月16日
(4)その他、自発的活動など
県内伝統野菜生産地の現場視察・情報収集（8ヶ所）